

type Crease Recovery Tester を使用し、標準湿度状態でしわ回復率を測定した。

3. RH 75% までは殆んど絹織物の収縮性は少ないし、RH 90% 以上の高湿度状態では著しく収縮率が増し、特に縮緬、フラットクレープなどの強撚糸使用織物ではきわめて大きい収縮率が認められた。また縮緬、フラットクレープなどでは布目方向による収縮率の違いは余り認められないが、羽二重、富士絹ではヨコ糸方向に比シタテ糸方向の収縮率が多少大きい傾向が認められた。

絹織物は RH 50~70% 状態で最もしわ回復率が高く、RH 50% 以下では徐々に、RH 70% 以上では急激にしわ回復率が低下する傾向が認められた。

脂肪酸処理した絹布（16 匁付羽二重）を高湿度状態（RH $93 \pm 2\%$ ）においてしわ回復率を測定すると、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、オレイン酸、リノール酸などの脂肪酸で処理した絹布は無処理原布に比し、かなりしわ回復率を増すことが認められ、高湿度状態での欠点防止を計ることができる。

B-10 湿潤時における絹織物の欠点に関する研究（第 2 報） （収縮性ならびにしわ回復性について）

蚕糸試験場 皆川 基

1. 各湿度状態における各種絹布の収縮性ならびにしわ回復性を測定し、特に絹布の欠点であるしわ回復性の向上を計るために 8 種類の脂肪酸で処理した絹布について検討を試みた。

2. 各種湿度状態に調製した硫酸デシケートを用いて絹布の収縮率を測定した。また東洋製機製 Monsanto